

野菜宝船 豪勢に

繁盛願い初せりに向けて盛り付ける

横浜市港北区の松本勝彦さん(76)は毎年、1月5日から首都圏の市場で開かれる初せりに向けて宝船を制作。このエリアで手掛けている唯一の農家で、船の組み立てから飾りつけまでほぼ一人でこなしています。年末から4日までに120隻以上を出荷予定。大手デパートやスーパーなどで、正月の風物詩として楽しめます。例年、特大サイズは豊洲市場のみの出荷でしたが令和4年から大田市場にも卸し、今年の初せりでは、特大が最高値50万円で落札されました。

◆「野菜宝船」の特徴◆

宝船は全長3メートルの特大から60センチの豆船まで4種類で、積む野菜は20種類ほど。キャベツやネギなどの定番野菜のほか、カラフルなダイコンを巧みに盛り付け、仕上げに寿の扇や小判で飾りつけています。

◆出荷先◆

出荷先は豊洲市場、大田市場、横浜中央卸売市場など5市場

◆取材先◆

港北区小机町 松本勝彦さん(76)



宝船に野菜を盛り付ける松本さん(2022年12月末)

◆生産の情報◆

船に載せる野菜の全てが横浜産で、ほとんどが自家栽培。規格をそろえるためにハクサイや小松菜などの葉物は、播種(はしゅ)時期を2回にずらし、夏場は寒冷紗をかける工夫もしています。昨年は、高温が続いた影響で予定よりも野菜が肥大してしまい、中船と豆船用の確保が難しかったそうです。そのため、小さい青パパイアやニンジンに代用しました。今シーズンは播種時期を3回に分けたことで改善され、ここまで順調に準備を進めています。

◆生産者のコメント◆

松本勝彦さん：「横浜で多彩な野菜が作られていることも知ってもらえればうれしい。縁起物なのでコロナ禍の収束と買ってくれた方々の商売繁盛、見た人が平穏な1年を送ってほしい」。

◆取材可能日◆

日程：12月28日（木）か29日（金）

※時間は要相談



出荷前の整然と並ぶ宝船(2019年12月末)



船の制作風景(2023年12月初旬)

◇横浜農業協同組合 組織概要 *2023年3月31日現在

創立 : 2003年4月
本店所在地 : 神奈川県横浜市旭区二俣川1-6-21
代表者 : 代表理事組合長 柳下 健一 (やなぎした けんいち)
出資金 : 116億円
組合員数 : 71,820人 (正組合員11,060人、准組合員60,760人)
職員数 : 1,337人
ホームページ : <https://ja-yokohama.or.jp>



みんながWAPPY!
やるJAの横浜!

総合3カ年計画を遂行するための心構えや姿勢として、組合員・地域・役職員の「みんながHAPPYになれる」JAを本気で作りたい!という共通した思いを表現し掲げるものです。

本件に関するお問い合わせ先

J A 横浜 組織部広報課 沢辺 (さわべ) TEL045-532-8410

※生産者への取材をご希望の場合は、
左記までご連絡ください。